






熊谷市荒川かわまちづくり協議会

現地視察資料













令和６年５月

熊谷市荒川かわまちづくり協議会　事務局

参加者名簿

役職名	氏　名	所属
会長	たなか　のりお 田中　規夫	埼玉大学大学院 理工学研究科　環境社会基盤専攻 (兼)社会変革研究センター　レジリエント社会研究部門
委員	のぐち　ゆきお 野口　幸雄	荒川自治会連合会
委員（代理）	みやざき　まこと 宮﨑　誠	熊谷市商工会議所
委員	おおさわ　しげあき 大澤　重明	一般社団法人　熊谷青年会議所
委員	あかぬま　のぼる 赤沼　昇	公益財団法人　熊谷市スポーツ協会
委員	のぐち　かずと 野口　一都	一般社団法人　熊谷市観光協会
委員	おがわ　よしひと 小川　義人	熊谷市立桜木小学校
委員	たかはし　みか 高橋　美香	熊谷市障害者団体連絡協議会
委員	おおさき　ゆきえ 大﨑　幸恵	NPO法人　子育てネットくまがや
委員	すなが　いちろう 須永　伊知郎	公益財団法人　埼玉県生態系保護協会
委員	くりはら　たかし 栗原　堯	NPO法人　熊谷の環境を考える連絡協議会
副会長	やました　かつみ 山下　克己	熊谷市　建設部

熊谷市荒川かわまちづくり現地視察　概要



【日時】　令和６年５月２８日（火）

１３：３０～１４：００

※雨天時は文化センター文化会館で実施

【目的】現状、利用状況、魅力や課題、ニーズの共有

【工程】

視察1　荒川緑地
- ラグビー場、運動広場、ランニングコース等
- 自由広場

↓

視察2　荒川（水辺・水際）
- 水辺の眺望・風景（山並み）
- 自然環境、歴史・文化1（渡し）

↓

視察3　堤防
- 堤防利用（散歩・休憩・自然学習・桜祭り・花火大会等）

↓

視察4　まちの課題等
- まちの課題

↓

終了

熊谷市荒川かわまちづくり現地視察　1



【視察場所】　荒川緑地（ラグビー場等高水敷）

【視察項目】

項目	確認事項
現地状況 （高水敷）	・ラグビー場1面、運動広場4面、ソフトボール場9面 ・自由広場、いきいき広場、ランニングコース（1周3ｋｍ）
利用状況	・**スポーツ利用**：ラグビー利用（練習・予選・大会）、運動部の部活、 地元スポーツチームの練習利用（ARUKASU（熊谷）、熊谷リリーズ等） ・**健康、休憩、交流利用**：ランニングやサイクリング、散歩等 ・**イベント利用**：花火大会（観覧スペース、屋台） ラグビーワールドカップ2019準々決勝パブリックビューイング ・**教育利用**：小学校の郊外学習（持久走大会）等 ・**緊急・防災利用**：消防救急ヘリポート、広域避難場所(地震時)、防災訓練
魅力	・広いオープンスペース、スポーツ文化（熊谷ラグビー発祥地） ・緑地や憩い空間（芝生広場、堤防法面の緑）
意見等	**課題**：暑さ対策、一般利用やペット利用とスポーツ利用の共存、アクセス不便 **ニーズ**：散歩コースの魅力の充実（遊歩道、東屋、トイレ）、バーベキュー利用、 イベント利用の推進（キッチンカー誘致、電源、トイレ、釣り堀） バリアフリー（休憩施設）、ユニバーサルデザインのスポーツ環境 子供の遊び場の充実（遊ぶ空間、イベント広場、水遊び場）

スポーツ利用



ラグビー利用（練習・予選・大会）
熊谷ラグビーの発祥の地

健康・休憩・交流利用



散歩利用

健康・休憩・交流利用



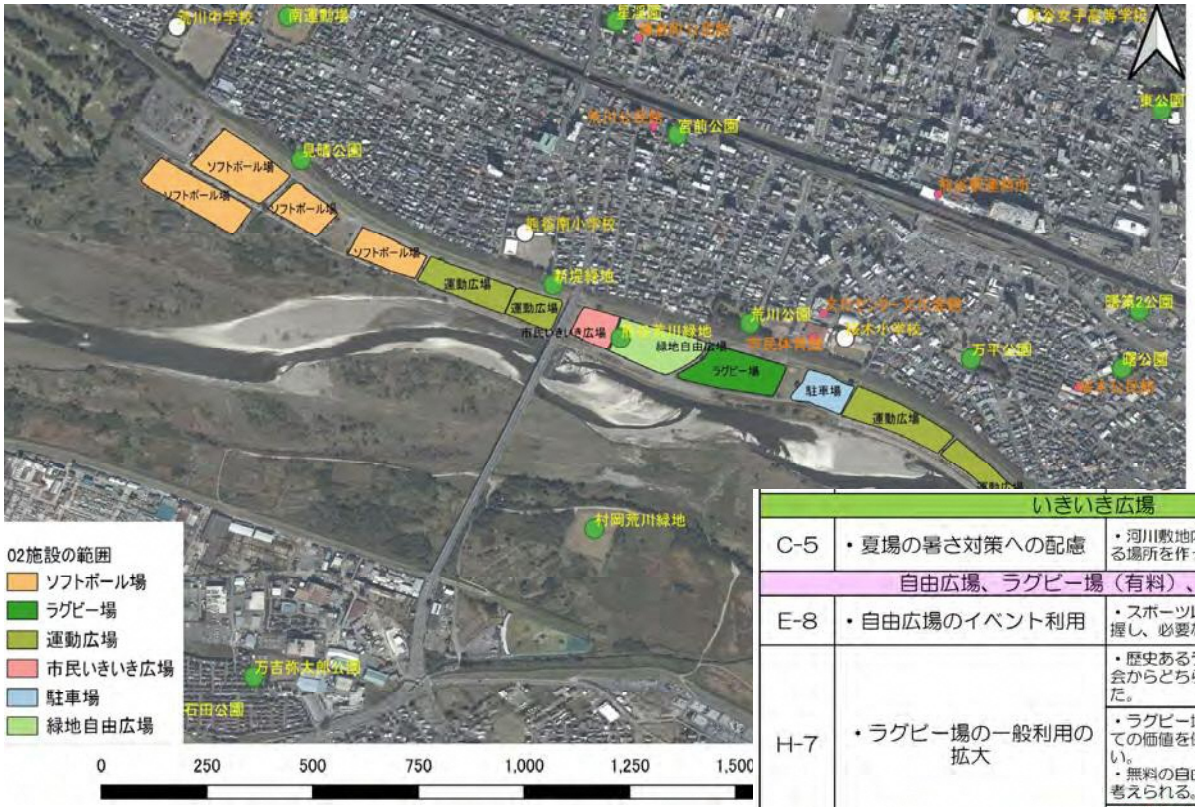
校外学習利用
（持久走大会）

花火大会の観覧



花火大会の観覧利用の様子

熊谷市荒川かわまちづくり現地視察　1



【ご意見（かわまちづくり）】

いきいき広場		
C-5	・夏場の暑さ対策への配慮	・河川敷地内の高木の木陰を活かした涼める場所を作ったらどうか。
自由広場、ラグビー場（有料）、グランド		
E-8	・自由広場のイベント利用	・スポーツ以外を含め、イベント需要を把握し、必要な設備を考慮する必要がある。
H-7	・ラグビー場の一般利用の拡大	・歴史あるラグビー場であり、ラグビー協会からどちらも残してほしいと要望があった。 ・ラグビー場（有料）は、ラグビー場としての価値を保つ観点から一般利用は難しい。 ・無料の自由広場については可能性として考えられる。 ・ラグビー場のあり方は、荒川堤防の将来計画を踏まえる必要がある
高水敷全般（グランド、広場、河原）		
G-5	・散歩コースとしての魅力の充実	・富士山の見える久下橋の方までつながった遊歩道、東屋、トイレ、水道等の休憩施設があると良い。
E-9	・高水敷地内の魅力の充実（アウトドア・バーベキュー）	・手軽なアウトドアが楽しめる施設があると良い ・有料バーベキュー場ができると市民に喜ばれると思う。 ・バーベキューのニーズは非常に大きく、問い合わせも多い。 ・近隣の方が納得できるルールに準じたバーベキュー利用ができると良い。 ・BBQを可能とする場合には施設管理者及び消防関係者によるルール決めが必要である。 ・BBQを許可するのであれば、騒音やゴミのポイ捨てが懸念されるため、BBQのルール決めを行い、行政で管理する必要がある。 ・まちおこしを目指し、人が集まる場所にするためには、若者が気軽に立ち寄れる場所や、行きたいなと思うランドマークなどがあると良い（荒川を望むオープンカフェ等）
E-10	・高水敷地内の魅力の充実（四季を彩る花）	・桜の季節以外に咲く花を植えたらどうか
E-11	・高水敷地内の魅力の充実（イベント利用の推進）	・イベント利用のニーズはあり、地域団体、企業と連携が見込まれる。 ・人が集まるイベントであれば、キッチンカー出店のニーズはある ・キッチンカーの誘致には舗装されている広い場所が必要 ・花火大会の観客席の拡大、階段式護岸の整備、アクセス路の確保、運営本部スペースの確保 ・駐車スペース、電源、トイレ、混雑時の通信障害対策があるとイベントがしやすい ・釣り堀などのイベントをして楽しめるものがあると良い ・イベント時の音響による住環境への影響への懸念
E-12	・音楽利用（練習等）	・音楽をやりたい人がいる一方で、静かにしてほしい人いて、解決できていないことがある。
F-5	・体が不自由な人に配慮した花火等の観覧環境の充実	・車いすの人が利用できるような広い有料観覧席があると良い。
F-6	・休憩施設の充実と案内の充実	・車椅子利用を考慮した休憩できるスペース（東屋など）が欲しい。
G-6	・ユニバーサルデザインのスポーツ環境づくり	・木陰でベタンクを練習できるスペースを整備してほしいという要望があった
I-3	・子供の遊び場の充実	・グラウンドの縮小により、自由に遊べる空間を作り出せるのではないか。 ・小さな子供が遊べる遊具があると良い 子どもの遊ぶ空間とスポーツをする空間を分けると良い。直射日光対策（屋根）があると良い ・まち中の大きな公園として、子供イベント広場のような空間があると良い（ニーズがある） ・夏場水辺で親子連れが自然と遊べる空間ができると良い（小さな川、噴水、プール等の水遊びができる公園） ・子供が安心して使えるしっかりとしたトイレがあると良い。 ・ベビーカー等で徒歩で移動する主婦層が利用する広場を駅から近い配置にすると良い
I-4	・親子で身軽に遊びに行ける工夫	・自転車利用をしやすくしたり、遊具等のレンタルサービスで、車で来なくても手ぶらで身軽に来て遊べるような空間、サービスがあると、子育て世代にとって良い。

【ご意見（地域課題）】

いきいき広場		
G-1	いきいき広場のアクセス	・いきいき広場は木陰はあるが、アクセスが不便で利用しづらい。
自由広場、ラグビー場（有料）、グラウンド		
G-2	ペット利用とスポーツ利用の共存	・自由広場を利用する方には、犬の放し飼いによる危険やし尿等、犬の利用に嫌悪感を頂いている方もいる（地域利用とスポーツ利用の共存が課題）。
H-2	グラウンドへのペットの進入	・スポーツグラウンドのその他の活用との両立は難しい。現在も勝手に入り込んだ方のペットのふんなどがグラウンド内に、スポーツ利用ができなくなる
H-3	グラウンドの利用団体の集中	・スポーツグラウンドは、実質、1団体で1グラウンドを占用している状態になっている。その分、既得権を持っている団体のスペースをなくすのは難しい。

熊谷市荒川かわまちづくり現地視察　2



【視察２　荒川（水辺・水際）】

【視察項目】

項目	確認事項
現地状況	・荒川（水辺・水際）、自然環境、荒川大橋
利用状況	**・スポーツ・アウトドア利用：**釣り、SUP（リバーレースイベント等） **・健康、休憩、交流利用：**荒川大橋下で休憩利用
魅力	・荒川の水辺と山並みの眺望・風景、水辺に近い（涼、癒しや憩い空間） ・自然環境、荒川大橋下の日陰（涼） ・荒川に関わる歴史文化（熊谷の暮らしの関わり、治水、利水）
意見等	**課題：**安全に利用できる親水空間、施設の不足、自然環境の保全 **ニーズ：**親水空間の魅力と安全対策の充実、子供の川遊びができる環境の充実 水辺の自然環境の保全（礫河原、水際の樹林の保全（コアジサシの生息域） 水辺の魅力の充実（夏場の涼、釣り、ユニバーサルデザイン）

眺望・風景　**防災**



水辺の眺望（近い）
水位観測所（防災利用）



風景（秩父連山の山並み）

自然環境



礫河原と野鳥の飛来



コアジサシ



カワラヨモギ



低水路の可岸に茂る植生

礫河原：コアジサシ、イカルチドリ（鳥類）、カワラバッタ（昆虫）、カワラヨモギ（植物）
礫底の瀬：アユ・ウグイが生息
礫底の淵：コイ等の大型の魚類

荒川　上下流の自然資源をつなぐ回廊

参考資料　荒川の自然環境と保全と利用のあり方

➢ 熊谷市荒川の自然環境

・荒川は秩父山地の甲武信ヶ岳を源とし東京湾まで流れる河川です。
・計画地は荒川の扇状地（扇端部）に位置し、豊富な水と肥沃な大地により、自然環境が形成されています。
・上流から下流までの様々な河川環境に応じた生物が生息・生育しており、計画地には、中流部の砂礫河原特有の生物が生息・生育しています。
・荒川の連続する広大な河川空間は、こうした上下流の多様な自然を繋ぐ回廊としての役割を担っています。
・計画地の上流には、県内でも有数の野鳥の渡来地となっている「野鳥の森」があります。

⑦



⑤



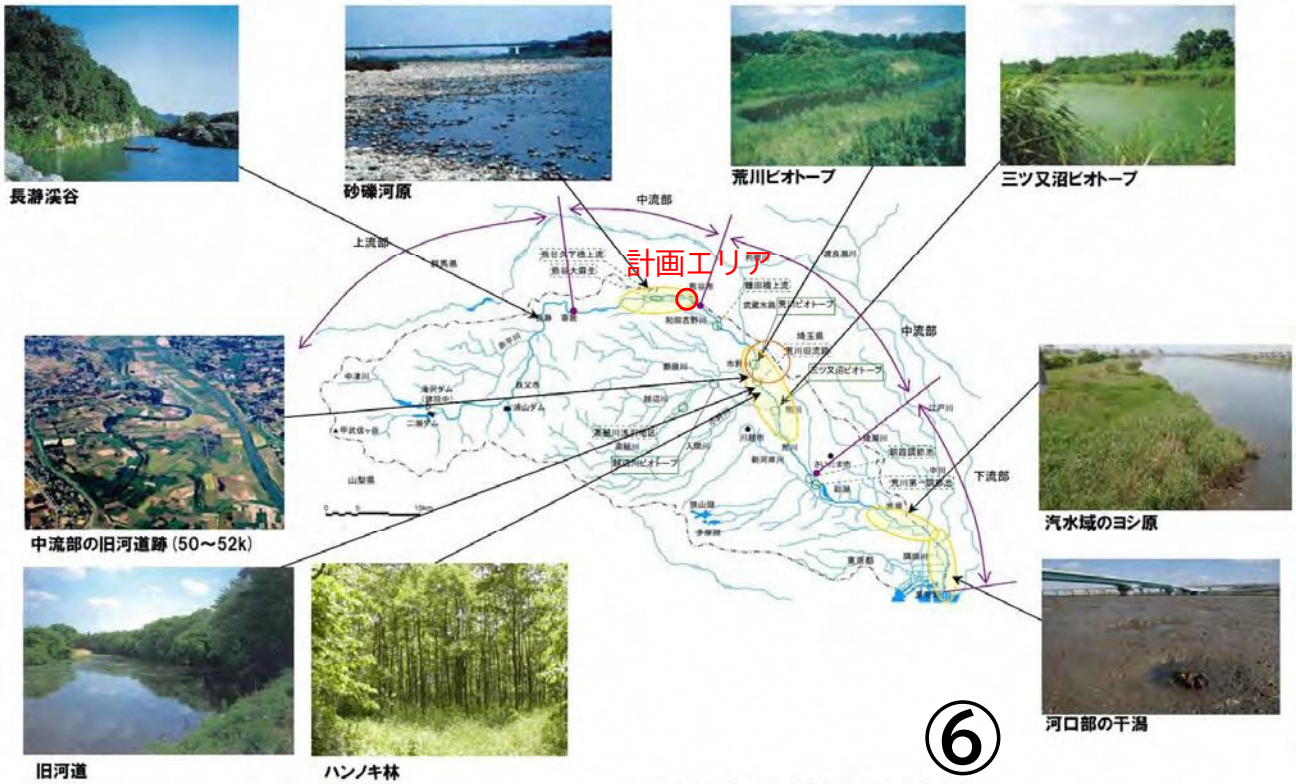
（レキ底の瀬：アユ、ウグイ、オイカワ等、淵：コイ等の大型魚類）
（レキ河原：コアジサシ、イカルチドリ類（鳥類）、
カワラバッタ等（昆虫）、カワラヨモギ（河原植物）が生育）



コアジサシ
【分　　布】本州以南に夏鳥として渡来し、繁殖。
【生息場所】大きな川の中州や河岸、湖岸、海岸の砂礫地や埋立地に生息し、コロニーをつくる。
【産卵時期】4～7月
【出典：水と緑のネットワーク荒川】



イカルチドリ
【分　　布】本州、四国、九州に繁殖。冬はほぼ日本全土。
【生育場所】河原や埋立地、荒地の砂礫地に生息。特に河川中流域の氾濫原で礫の多い所を好む。
【出典：水と緑のネットワーク荒川】



⑥

図 2-1　荒川水系の代表的な自然環境

参考資料　荒川の歴史文化　渡し

➢ 熊谷市荒川の歴史・文化（物流・渡し）

・江戸時代から明治にかけて、熊谷と対岸の村岡村、を結ぶ「村岡の渡し」、久下と対岸の大里村を結ぶ「久下の渡し」がありました。

村岡の渡し



荒川大橋

⑧



荒川大橋改修工事



村岡の渡し船

出典：熊谷市ウェブサイト

・明治42年(1909)に荒川大橋が完成するまで、熊谷宿と対岸の村岡村を結ぶ「村岡の渡し」がありました。
・現在の荒川大橋の下に舟の発着場があったとされています（熊谷市ウェブサイトより）。
・渡船は廃止されましたが、吉岡小学校の保管庫に馬船(馬を運ぶ船)1艘と歩行船(人を運ぶ船)2艘が保管されています。（市指定文化財）

久下の渡し



久下橋

出典：熊谷市ウェブサイト

⑨



旧久下橋（冠水橋）

出典：国土交通省ウェブサイト

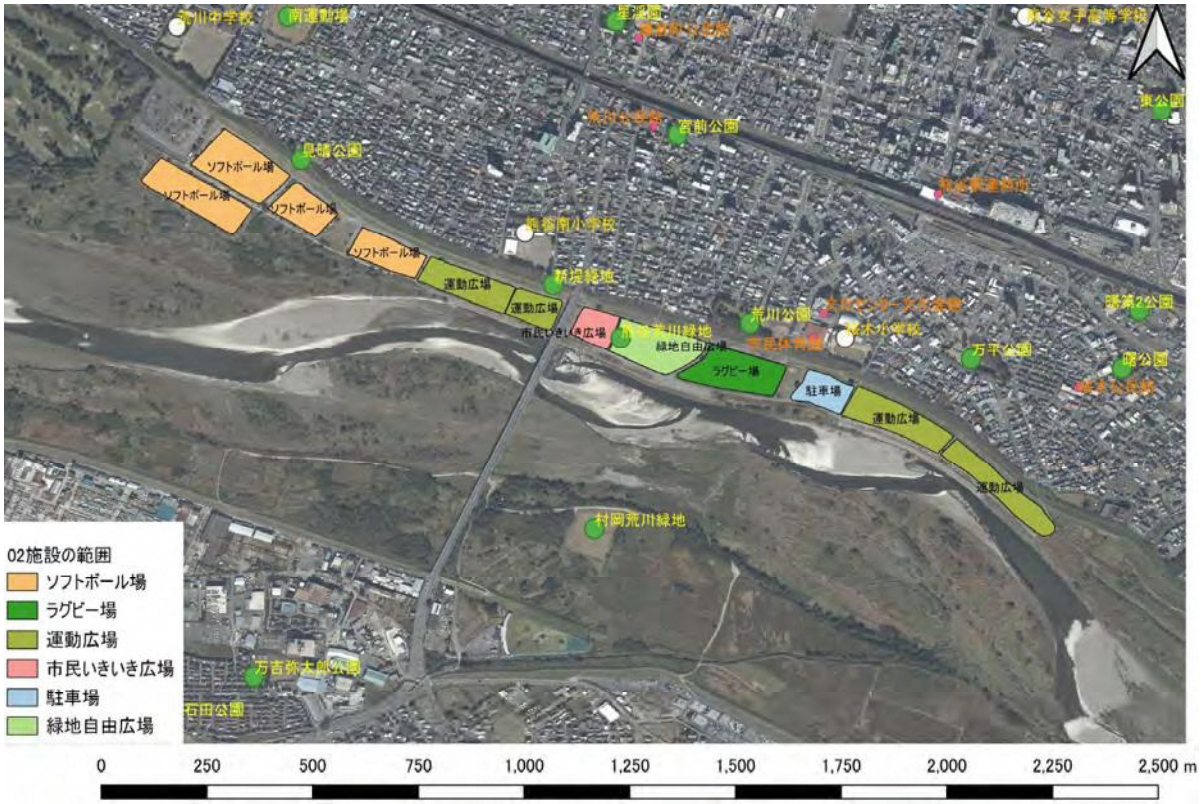


久下の渡し・冠水橋の碑

出典：国土交通省ウェブサイト

・昭和30年(1955)に旧久下橋（冠水橋）が完成するまで久下と対岸の大里村を結ぶ「久下の渡し」がありました。

熊谷市荒川かわまちづくり現地視察　2



A：かわまちづくり計画の考え方等
B：安全、安心に暮らせるまちづくり
C：快適で暮らしやすいまち（暑さ対策、住境保全）
D：環境に優しく自然に優しいまち
E：活気と賑わいのある魅力的なまち
F：子供、高齢者、障がい者の誰もが暮らしやすいまち
G：市民の健康づくり推進
H：スポーツの魅力や文化の発信
I：子育て支援の環境づくり
J：維持管理、運営、官民連携による管理
K：地域の文化、歴史の継承
L：その他
※赤字は留意事項、懸念点

【ご意見（地域課題）】

川、河原		
F-2	安全に利用できる親水空間・施設の不足・喪失	・昔に比べ高水敷と河床の高低差が大きく水辺に近づきにくくなっている。また、石も少なくなっており水切り等の遊びも難しい。
		・川はあるが、市民はあまり川に行かず、釣人が数名大橋の下に行っているくらいである。
		・浅瀬など、体の不自由な人や子供達等が安全に水辺に親しめる場所になっていない。釣りも安全にできない。
		・水量が多くなく、護岸も水に近寄れるような状況でないので安全性の観点から水辺のアクティビティのイベント利用は難しい。

【ご意見（かわまちづくり）】

水辺、河原		
D-6	・川と親しめる親水空間の魅力の充実と水辺の安全対策	・河原沿いを歩ける転落防止にも配慮した遊歩道があると良い
		・親水施設整備の検討にあたり、荒川の河川特性（水辺の安全性）を踏まえる必要、利用者の十分な安全対策が重要である
D-7	自然学習、体験の場の保全や充実、学校連携の視点	・河原の石に関する自然学習で埼玉県立博物館との連携がとれるのではないか。
D-8	水辺の自然環境の保全、活用	・面的な整備等をするにあたっては、自然環境保全団体の意見を踏まえ、自然環境保全に配慮する必要
		・水際の樹木の保全が必要（上下流の環境の連続性から重要な位置づけであり、軽視しないでほしい）。 ・礫河原の保全が重要（「明戸サイホン～久下橋」はコアジサシの生息域として最も適した場所であり、礫河原を守ってほしいという要望を30年以上前に発信している。）
E-6	・水辺の魅力の充実	・夏に涼める水辺空間や、釣りなどを楽しむ場所にする等、夏も冬（体が不自由な人を含め）市民が集まる場所になると良い
E-7	・花火大会の観覧席の充実	・有料ラグビー場前の河畔に生える樹林を伐採し、花火への見通しを確保したい。
I-2	・子供の川遊びができる環境の充実	・暑い夏場の子供が川で水遊びできる環境、魚を捕まえる等の自然との触れ合いが出来る環境を整備して欲しい。
		・子供を安心して遊ばせられるような対策を行ってほしい。
J-6	・荒川の維持管理上の課題	・流量観測地点の見通し線の確保

熊谷市荒川かわまちづくり現地視察　３



【視察３　堤防利用】

【視察項目】

項目	確認事項
現地状況	・堤防道路、堤防・桜堤、いきいき広場、階段（高低差4m程度）、坂路（急勾配）
利用状況	**・健康づくり利用：**散歩、ランニングやサイクリング等 **・イベント利用：**花火大会（観覧スペース）、スポーツ観戦、桜祭り **・教育利用：**小学校の郊外学習（自然学習）等
魅力	・荒川と山並みによって創り出される風景 ・桜堤（日本さくら名所100選（日本さくらの会）
意見等	**課題：**河川空間へのバリアフリーなアクセス、イベント時の坂路の通行の安全確保 イベント時の雑踏事故防止、イベント時のゴミ対策、自然環境の保全 自転車対歩行者の安全対策 **ニーズ：**ユニバーサルデザインの観覧環境の充実、階段式護岸（観覧席利用） 散歩やランニングコース、サイクリングの魅力の充実と情報発信 スポーツによる交流拡大、桜堤の保全と継承 新市民体育館等との一体的整備

散歩・交流・サイクリング



堤防上道路



散歩・自転車利用

桜祭り・花火大会等



桜祭りの様子



花火大会の法面利用状況

熊谷市荒川かわまちづくり現地視察　３

眺望・風景



風景（秩父連山の山並み）

自然学習







河川空間内の緑と自然学習利用（イメージ）



バリアフリーなアクセスを
損ねる階段、急勾配斜路
市民体育館前（堤内地側）



バリアフリーなアクセスを
損ねる階段
市民体育館前（堤外側）
（高低差４ｍ程度）

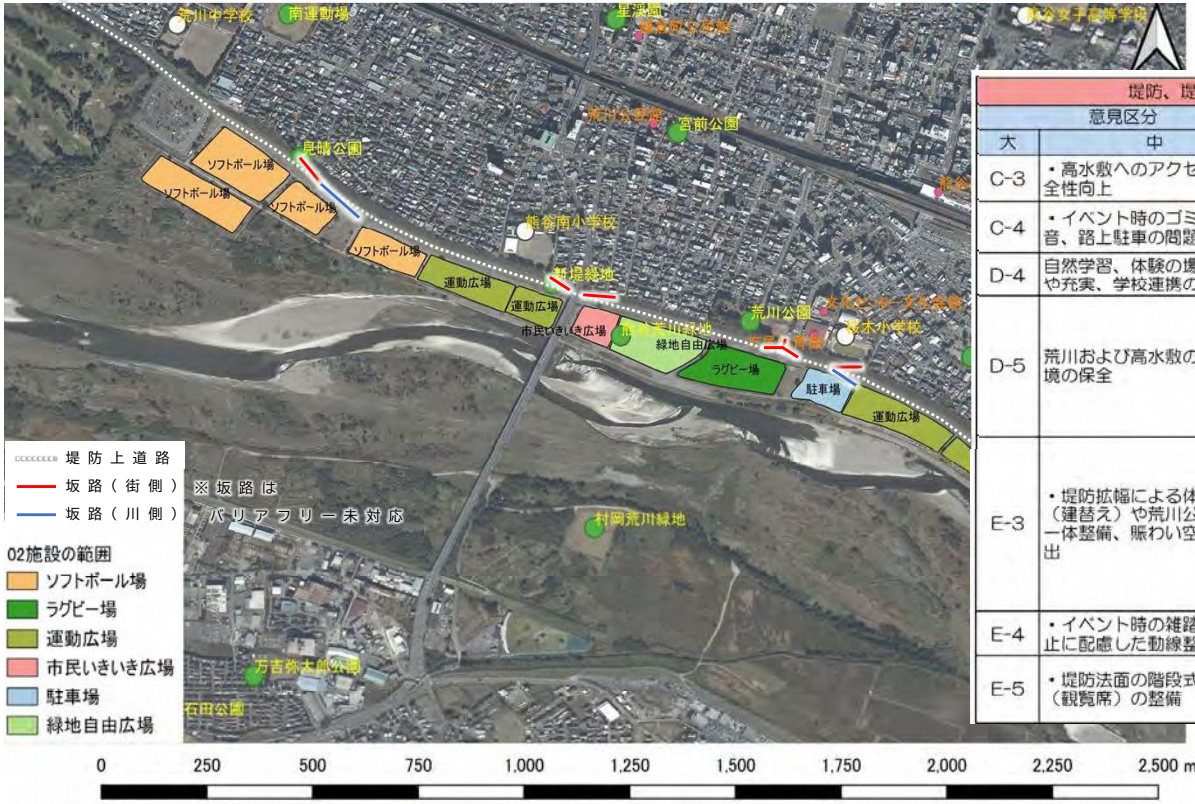


桜木小学校前の坂路
（堤内側）
（高低差４ｍ程度
急勾配１５％程度）



桜木小学校前の坂路
（堤外側）

熊谷市荒川かわまちづくり現地視察　3



堤防、堤防上の道路、坂路、階段		
意見区分		意見概要
大	中	
C-3	・高水敷へのアクセスの安全性向上	・高水敷へバスで安全に移動するための坂路の改修が必要
C-4	・イベント時のゴミ、騒音、路上駐車の問題	・かわまちづくりにより、イベント時のゴミや騒音、路上駐車の問題が解消できると良い
D-4	自然学習、体験の場の保全や充実、学校連携の視点	・学童の自然学習利用のため、自然を残してほしい
D-5	荒川および高水敷の自然環境の保全	・現状の土堤をコンクリート製の階段護岸等の整備を実施する場合は、地域の環境団体等への説明及び代替措置の検討が必要 ・現在の自然を残した整備にしてほしい。 ・環境保全上は、階段護岸は避け草地が望ましい。 ・堤防拡幅時には既設堤の在来野草を盛土表面に移植する等、環境に配慮が必要
E-3	・堤防拡幅による体育館（建替え）や荒川公園との一体整備、賑わい空間の創出	・土手に安全できれいなトイレのある飲食店が整備されると良い ・堤防を拡幅して体育館とつながると良い ・荒川公園から河川敷まで連続した賑わいを創りたい ・堤防上または新体育館に体が不自由な人に配慮した観覧席やVIP用の観覧席が整備されると良い ・堤内地側の盛土整備による道路への影響や法崩れによる住宅への影響が心配
E-4	・イベント時の雑踏事故防止に配慮した動線整備	・イベント時の雑踏事故防止に配慮した動線計画、堤防道路や階段の拡幅整備が必要
E-5	・堤防法面の階段式護岸（観覧席）の整備	・階段式護岸になると花火が見やすくなり良い。川側だけでなくまち側にも階段を設けないと事故の危険等が懸念される。 ・階段式護岸は完成堤防での整備が必要

【ご意見（かわまちづくり）】

F-2	・子供、高齢者、障がい者の誰もが利用しやすい移動環境の充実	・高齢者の方々が安心して歩ける道路、階段（手すり付き）、スロープを設置してほしい。 ・バリアフリーに対応したスロープがあると車椅子でアクセスがしやすくなる。 ・現状の河川敷内への坂路は遠く、坂路の勾配が急で、車椅子では移動が困難。 ・スロープは、目的地に遠回りとならないような位置に配置が必要（高齢者利用、車椅子利用、ベビーカー利用等） ・堤防から水辺までの連続したアクセスしやすさを考える必要がある。 ・遠方からの来訪者のための駐車場へのアクセス路の整備やトイレがあると利用しやすい。
F-3	・堤防上道路の交通安全対策（自転車対歩行者）	・堤防上の道路の自転車（スポーツバイク）と歩行者の通行空間の分離等の歩行者の安全対策が必要。
F-4	・体が不自由な人に配慮した花火等の観覧環境の充実	・堤防上または新体育館に体が不自由な人に配慮した観覧席やVIP用の観覧席が整備されると良い。
G-3	・散歩コースとしての魅力の発信、市民利用の促進	・散歩コースとしてとても魅力があるコースであり、その魅力を知ってもらい、利用してもらいたい。
G-4	・ランニングコースの魅力の充実	・ランニングコース（堤防道路、高水敷）に街灯等の夜間利用の防犯対策が必要
H-4	・新スポーツ・文化・健康の連携軸の魅力の充実（サイクリングロード）	・熊谷市は自転車が乗り易い平坦地で、荒川の上下流の隣接市と連携を図る上で自転車は有効な要素と考える。 ・自転車が安全に利用できる緩勾配の坂路があると良い ・サイクリングロードなどの自転車利用環境等を検討するにあたっては歩行者との安全対策に留意する必要がある。 ・サイクリングやスポーツ利用の人をまちに呼び込むことはとても難しい。
H-5	・新スポーツ・文化・健康拠点機能の充実	・階段式護岸はスポーツ観戦できて良い
K-1	・熊谷桜堤の保全、継承	・熊谷桜堤は桜百選に指定されており、最新技術を駆使し必ず残してほしい。 ・桜並木は熊谷の大切な財産であり、（その保全）に配慮した計画づくりとしてほしい。 ・堤防天端に施設を設ける等した場合、桜堤の景観が損なわれるため、桜堤に影響するような整備は反対である。 ・桜並木の保全と堤防拡幅や階段敷護岸の工事の両立を考える必要がある。
J-4	・堤防及び坂路の維持管理	・かわまちづくり事業地内は市の占用範囲とし、一括で維持管理してほしい。
J-5	・坂路の改修（防護柵の設置）	・川表側に防護柵を設ける場合は、着脱式等の洪水時の対応が可能な構造とする必要がある。

堤防、堤防上の道路、坂路、階段		
F-1	河川空間へのバリアフリーなアクセス	・河川敷地内は砂利道や段差などもあるが、現状は車いす利用者等に対応したバリアフリーな観覧席や優先席、トイレ、駐車場等を用意できていない。 ・堤防が河川敷へ行く障害になっている。特に高齢者は自転車で堤防の乗り降りが障害になる。 ・自転車で簡単に河川敷に降りられる坂路が少なく、階段横のスロープで降りる等、安全な自転車利用（子供や高齢者など）ができない状況にある。 ・桜木小学校のところにある坂路は車での出入りが少し怖い。 ・川裏側から高水敷にアクセスする際、桜木町にある川表坂路と川裏坂路を結ぶ導線が急カーブになっており、アクセスが大変である。 ・坂路が少なく堤防上や河川敷のアクセスが悪い。アスファルトなどで整備されておらず上がりにくい。 ・現状の河川敷内へのアクセス路は遠くて不便（桜木小学校前の坂路）。また坂路の勾配が急で車椅子では移動が困難。 ・荒川大橋付近の土手が立体交差になり横断が容易にできないため、計画エリアはあまり利用しなくなった。 ・駐車場利用の車両と同様の坂路を通らなければならないので危険である。

【ご意見（地域課題）】

H-1	イベント時の坂路の通行	・荒川大橋より西側にはソフトボール場などたくさんのグランドがあり、毎週末大会が行われている。大会がある際には100台近くの駐車場利用があり、坂路が狭く、車相互の離合が困難な状況にある。入口とで出口を分けた坂路があると良い。車や大型バスの利用が多い。
J-1	イベント後の堤防・坂路状況	・祭り後の堤防法面には、観光客がシートの重りに使用した石が残されており、除草作業の際に邪魔になる。 ・祭り後の堤防坂路は、祭りの際の車両の走行により、路面がボロボロになっている。
J-2	堤防整備（嵩上げ・拡幅）の支障物	・堤防裏の道路に帝石パイプライン（新潟～東京）があり、パイプライン上は盛土ができない。
J-3	桜の枝の管理	・堤防天端には桜の枝が落ちており、落ちてきた枝による歩行者の怪我が懸念される。

熊谷市荒川かわまちづくり現地視察　4

【視察４　歴史文化２（治水・舟運・中山道）まちづくりの方針、まちの課題】

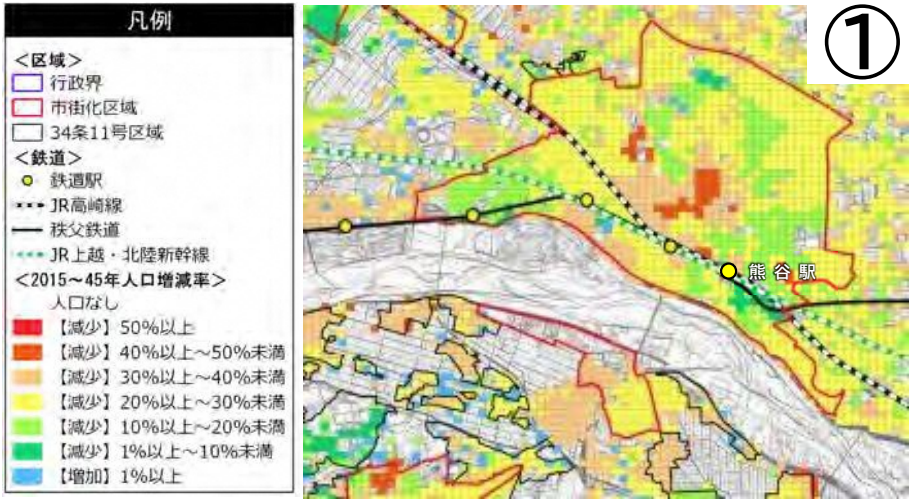


【視察項目】

項目	確認事項
現地状況	・県北最大の交通拠点熊谷駅から5分の立地条件 ・都市拠点、スポーツ文化健康拠点、荒川は水辺の軸に該当。 ・災害リスク（荒川想定最大規模で浸水深さ0.85m家屋倒壊等氾濫区域に該当） ・新市民体育館、荒川公園再整備の新たな交流拠点整備の計画→一体的整備の契機
魅力	歴史文化 ・熊谷の発展・暮らしを支えてきた川　荒川 ・荒川と中山道が熊谷（まち）の発展を支えてきた物流の歴史（江戸との舟運） ・浮世絵に描かれている中山道中の御狩屋の賑わい （来訪者との交流の場）
意見等	**課題**：人口減少、少子高齢化→都市拠点の魅力向上、子育て環境充実 災害リスク→必要な防災対策（堤防整備）、地域防災力（自助、公助）の充実 自動車需要増加への交通影響の懸念→　駅近の立地条件を活かした、ウォーカブルなまちづくり（賑わい創出・自動車利用の適正化）が必要 **ニーズ**：ユニバーサルデザインのスポーツ環境つくり、水辺およおび高水敷の自然環境の保全。水辺に親しむ空間づくり、河川敷地内の魅力、休憩拠点の充実 子育て世代が滞在しやすい空間づくり等 **検討の視点に係る意見**：関連事業との連携、熊谷の荒川ならではの魅力の創出 当事者目線、利用者目線の計画づくり まちづくりへの効果の波及、地域活性化と住環境保全の両立 自然や風景を活かした空間づくり、官民連携による河川管理 スポーツ文化を活かす計画、ユニバーサルデザインのスポーツ環境の充実

参考） まちの課題　人口減少・土地利用

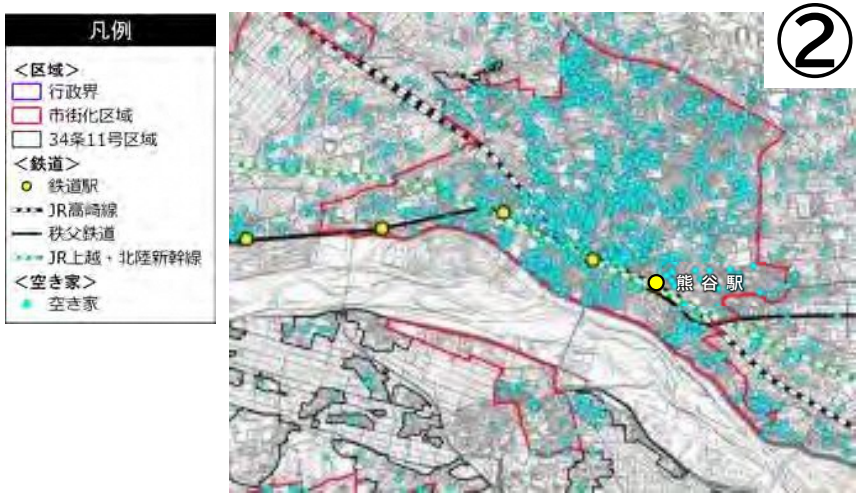
➢ まちの課題（人口減少・土地利用（空き家等の状況））



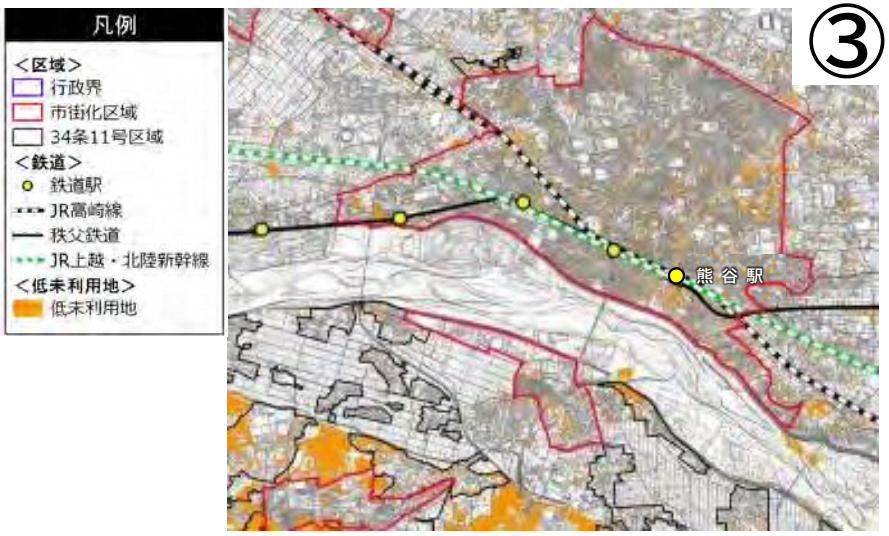
駅周辺の人口増減の状況
出典：熊谷市立地適正化計画（令和４年３月）

・駅周辺の人口増減の状況（2015～2045年人口増減　率）より、市全体で人口が減少し、都市拠点である熊谷駅周辺においても10～30%減少することが見込まれています。

・低未利用地の状況、空き家の状況（R2.3市調査）より、熊谷駅南口および中心市街地において、近年は小規模な低未利用地や空き家が目立つようになっているため、魅力や賑わいの向上を図る取組が求められています。



空き家の状況
出典：熊谷市都市計画基本方針等策定基礎調査（Ｒ２.３）



駅周辺の低未利用地の状況
出典：熊谷市都市計画基本方針等策定基礎調査（Ｒ２.３）

参考） まちの課題　災害リスク

➢ まちの課題（災害リスク））



浸水深等	RGB（標準）
20m ～	220,122,220
10m ～ 20m	242,133,201
5m ～ 10m	255,145,145
3m ～ 5m	255,183,183
0.5m ～ 3m	255,216,192
～ 0.5m	247,245,169

荒川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）
出典：https://plateauview.mlit.go.jp/

・洪水ハザードマップでは、**荒川が氾濫した場合に浸水被害（（浸水深0.85m 家屋倒壊等氾濫区域（想定最大規模））の発生が見込まれるエリア**となっています。

・計画地の堤防は暫定形状で未完成であるため、今後、**洪水に対し安全な施設として完成堤防としての整備（拡幅、嵩上げ）が必要**となっています。

・気候変動の深刻化、高齢化や単身世帯の増加、地域コミュニティの希薄化に対応し、**想定を超える災害への備えの充実、流域治水の取組推進、自助や共助の意識向上が必要となっています**。

・荒川緑地は、**地域の消防救急活動（ヘリポート）**に利用されているほか、地震による大きな火災が発生した場合などの大規模な避難にに適した**広域避難場所に指定**されています。

参考）まちの課題　交通課題



イベント時の混雑状況





イベント時の混雑状況



道路状況（歩道、幅員、交通事故）









イベント時の混雑状況



出典
交通量：令和３年度一般交通量調査結果
事故データ：埼玉県警察　事件事故発生マップ（全事故２０２１～２０２４.２）

用途地域：国土数値情報　令和元年データ
都市機能誘導区域・居住誘導区域：熊谷市立地適正化計画令和４年
ベース地図：国土地理院基盤地図情報

熊谷市荒川かわまちづくり現地視察　4



【ご意見（かわまちづくり）】

・かわとまちとのつながり・まちの課題、
まちづくりの方針

計画範囲全般			
意見区分 大	意見区分 中	意見概要	平面図上の該当箇所
A-1	計画の考え方、検討の視点	・市全体の一体性を持たせた計画、関連事業との連携が重要	-
		・熊谷の荒川ならではの魅力の創出が重要	-
		・当事者目線、利用者目線の計画づくりが必要	-
		・都市計画上の土地利用制限等に注意が必要	-
		・まちへの効果の波及を考える必要がある	-
		・地域活性化と住環境の保全の両立が必要	-
		・観光の視点からは、都市的な空間より自然や風景を活かした空間づくりが重要。	-
A-2	計画範囲	・現案（荒川大橋～グランド）がやりやすい範囲と考える	a
		・対岸（右岸）エリアを含めて整備する計画としてほしい	b
		・熊谷駅南口エリアのまちづくりとの連携が必要（荒川公園、新体育館、図書館、文化会館等）	c
		・駅からかわまちまでの歩行者動線が重要	c
		・かわまち、南口エリア、北口エリアの一体化（歩行者動線）する視点が重要	d
		・富士山の見える久下橋の方までつながった遊歩道、東屋、トイレ、水道等の休憩施設があると良い。	e
		・荒川大橋から久下橋までの区間を舟下り等できたりすると良い	f
		・河川敷地内から万平公園までを含む範囲へ拡大してほしい。歩行者動線が整備されていると利用しやすい。	g
A-3	計画づくりの進め方	・段階的な整備、試行改善の繰り返しにより充実していく進め方が良いのは。	-
		・計画づくりへの市民参加促進、市民意見の把握の充実が必要	-
		・かわまちの取組の情報周知・広報の工夫が必要	-
		・パブコメのようなやり方だと、賛成意見の拾い上げが難い。反対意見のみ出てくることが問題。	-
		・デジタル技術を活用して、市民意見分析の客観性向上、前向きなコミュニケーションの進め方を考えていく必要がある。	-
		・『居心地のいい河川空間』が整備されたとしても、イベント等がなければ人は他の施設に流れてしまう。	-
		・出店する場合の場所（桜並木下の遊路、動体育館の中、グラウンド等）の検討が必要。露天商の方としては、桜に近い今の場所を希望される。	-
B-1	防災教育の充実（水災害の自分事化）	・河川の危険性を理解する場として活用できると良い	-
B-2	防災機能の充実	・荒川公園、体育館（建て替え）と荒川緑地の防災拠点連携の視点は重要	-
C-1	暑さに配慮した計画づくり	・熱を吸収しない構造物整備による暑さが増すことへの懸念	-
C-2	住環境の保全と賑わい創出の両立の視点	・騒音や交通量増加への懸念	-
		・住環境の保全と賑わい創出の両立のあり方が重要	-
C-1	暑さに配慮した計画づくり	・熱を吸収しない構造物整備による暑さが増すことへの懸念	-
C-2	住環境の保全と賑わい創出の両立の視点	・騒音や交通量増加への懸念	-
		・住環境の保全と賑わい創出の両立のあり方が重要	-
D-1	水辺および高水敷の自然環境の保全、活用	・学童の自然学習・体験の場の保全	-
		・荒川の水辺の自然を活かした学校連携の可能性（国の水生生物調査、水辺の楽校）	-
		・協議会を通して河川管理者（国）とゾーニングを設定しており、当計画箇所は「河川敷エコ利用ゾーン」であり、自然環境が20%維持する計画となっていた。但し、現状守られているとは思えない。	-
		・希少種の有無に関わらず、生物が生息できる空間を削ることに対し慎重に検討してほしい。	-
D-2	眺望、風景との調和、保全	・構造物等の計画において、荒川や山並みへの眺望やランドスケープとの調和が重要	-
D-3	水辺に親しむ空間づくり	・現状は川に親しめる空間となっていないことが問題	-
E-1	河川敷地内の魅力の充実	・河川敷内に魅力的な施設を設置してほしい（動物との触れ合い、乗馬、街なかのオアシス、若い人を惹きつける魅力）	-
E-2	休憩拠点の充実	・遠方から人が集まる休憩拠点の充実が重要（かわまちや熊谷の地域の魅力の情報発信のメリットがある）	-
F-1	ユニバーサルデザインの空間づくり	・体が不自由な方や高齢者のアクセス利便の向上、楽しむ施設の充実が必要	-
G-1	ペットとの触れ合いの魅力の充実	・河川敷にドックランがあると良い	-
G-2	新スポーツ・文化・健康拠点機能の充実	・サイクリストの休憩拠点の整備が必要（荒川サイクリングロード、秩父鉄道サイクルトレインとの連携） ・自転車関連イベントの誘致による集客	-
H-1	ラグビーのスポーツ文化を活かした計画づくり	・熊谷のラグビーのスポーツ文化を活かした計画づくりが重要	-
H-2	スポーツ利用施設の充実	・スケートボード、フットサル、テニスコートの整備	-
H-3	・ユニバーサルデザインのスポーツ環境づくり	・体の不自由な人等がボッチャなどのスポーツができる環境づくり、指導者の育成が必要	-
I-1	子育て世代が滞在しやすい空間（公園や水辺）の充実	・水辺を活かし、子育て世代が使える公園（水辺で遊ぶ、水の音が聞こえる、暑さをしのげる木陰等）、自然遊びができる空間になると良い。	-
J-1	河川空間の管理への官民連携、市民参画の推進の視点	・スポーツイベントやプロスポーツ観戦需要を活かし、河川空間の官民連携を推進すると良い。	-
		・河川空間の維持管理への市民参加を促す取組となると良い ・イベント企画は、既存の地域団体の活動と連携すると良い	-
J-2	・台風襲来時や出水後の対応（方法、体制）	・台風襲来時の車屋・椅・トイレの移動の対応方法、体制を決める必要がある	-
		・出水後の河川敷の流木撤去等の復旧の体制の検討が必要	-
J-3	・イベント利用時の支援の仕組み	・労力がかかる部分を支援してもらえる仕組みが必要	-
L-1	かわまち応援意見	・かわまちづくり計画はわくわくしてとても良い。	-

注）赤字：留意事項、懸念点

【ご意見（地域課題）】

計画地全般		
意見区分 大	意見区分 中	意見概要
E-1	イベントの備品	・昔は駅伝大会等のイベントが行われていたが、現在はイベントをやる備品が高水敷になく、運び入れる必要がある。
I-1	子育て世代が滞在し易い空間（公園や水辺）の充実	・荒川を活かして、子供が水辺で遊べる場所や涼める場所があるとよい。
		・自転車の利用環境の充実や遊具等のレンタルサービス等、親子が手ぶらで遊びに行けるような工夫をすると良い。
		・遊具やバーベキュー等が借りれて、車で来なくても手ぶらで身軽に来て遊べるような空間、サービスがあると、子育て世代にとって良い。

第1回協議会　会場案内図

場所：文化センター文化会館　１階　第１練習室

